書いてみよう

年　組　名前

三寒四温（三日ほど寒い日が続いた後に、四日くらい暖かい日が続く）の季節となりました。

日常のくらしの中（衣、食、住、景色、自然など）で、どんな時に、春が近づいていることを感じますか。

下の【条件】に合わせて書きましょう。

コラム「北斗星」

「青める」

「青める」という言い方が男鹿市にある。採れたてで、まだ褐色の海藻を塩もみして湯がき、鮮やかな緑色へ変える作業をいう。連休中に男鹿マリーナで行われたワカメの刈り取り体験会で教わった。

茎から離したワカメの葉を塩もみすると細かな泡がぶくぶくと出て、柔らかさが増していく。塩抜きをしたワカメを湯にくぐらせる瞬間は、何度繰り返しても胸が高鳴った。緑色に姿を変えたワカメは磯の香を放ちつつトロトロ。いくらでも喉を通っていった。

〈秋田魁新報２０２５年２月26日付より。記事は手直ししています〉

啓蟄

近づく春「こも外し」

二十四節気の一つ「啓蟄」の５日、秋田市泉の天徳寺（前田彰亮住職）では境内のマツに巻かれたこもを外す作業が行われた。

わらで作られたこもは、昨年11月の「立冬」の日に巻いた。越冬する害虫をおびき寄せ、外して処分することで樹木を守ると言われる。啓蟄は冬ごもりしていた虫が地上に出てくる時期を指すことから、同寺はこれに合わせて外している。

この日は午前９時ごろから、潟上市の造園会社の社員４人が作業を開始。強い風が吹き、小雨も降ったが、はさみで縄を切って手際よく進めた。40分ほどで約１００本のこも外しを終えた。

造園会社の木村臣さん（48）は「例年はぽかぽかと暖かいが、今年はまだ寒い。春の始まりを感じさせる風物詩であり、これからもマツが守られてほしい」と話した。

手際よく進められたこも外し

〈秋田魁新報２０２５年３月６日付より。記事は手直ししています〉

【条　件】

・春が近づいていると感じた体験と、その時の気持ちを入れること。

・百字以上、百二十字以内にまとめて書くこと。

・◆の印から書き始め、改行をしないで続けて書くこと。

題名

◆

100字

120字

出題・監修：小松尚子（元秋田県教育専門監）